

平成 29 年度学校評価表

遊学館高等学校

教育目的	建学の精神のもと、教師と生徒がともに生活する中で、教師の人格を生徒に伝え、教師と生徒が一体となり、高い人格と深い情操を陶冶することを教育の目的とし、健康で、品性を備え、知性あふれる生徒の育成をめざす。
教育目標	文武両道を奨励し、進学や部活動等において高い実績を上げることを目指し、互いが互いを尊重し、思いやる心と愛校心に満ちた元気の良い生徒を育成する。

アンケート及び調査

	名 称	実施時期	対象	担当部署
1	学校生活アンケート	10月	全校生徒	生徒指導部（主）、遊学講座運営委員会、1年学年会、2年学年会、3年学年会
2	授業アンケート	7月	全校生徒	教務部
3	学校行事アンケート（体育祭）	6月	全校生徒	保健体育科
4	学校行事アンケート（学園祭）	9月	全校生徒	生徒会
5	卒業生アンケート	2月	3年生	3年学年会
6	修学旅行アンケート	3月	2年生	2年学年会
7	家庭学習実態調査	毎月	全校生徒	教務部、1年学年会、2年学年会、3年学年会

*学校生活アンケートの質問項目は、対象学年が限られたものも有り。

重点目標に体する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
重点目標 1. 心身ともに健康な生徒の育成					
① 正義感を持った心根の優しい生徒の育成 ○SNSによるトラブル及びいじめの未然防止 ○教育相談体制の充実	生徒指導部	SNSによるトラブルは年々増えている。教育相談とカウンセラーとの連携を強化し対応した。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	アンケートの結果からはA評価だが、残念ながらSNSの指導は多く、いじめもあった。教育相談はカウンセラーと連携し丁寧に対応してくれた。
② 明るく元気に進んで挨拶ができる	生徒指導部	部活動の生徒は良好である。しかしながら、一般生においては進んで挨拶をしているかは疑問である。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	一部の部活動は良好である。しかしながら、校門指導においても挨拶の出来ない生徒がいる。
③ 正しい頭髪・服装で登校 ○校門指導（毎日実施） ○服装指導期間（定期的） ○服装指導（日常的） ○頭髪指導（月一回）	生徒指導部	女子生徒のスカート指導に課題が残った。頭髪指導については係先生を中心に良好であったが、係の先生に任せっきりの先生方もいた。	生活指導通知書の発行枚数を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超	D	スカートの指導は課題を残した。全教員がその都度、厳しい指導をしていかないと難しいかと思う。指導書の発行は先生方が積極的に指導してくれた成果だと思う。
④ 愛校心を持って校内美化に取り組む	生徒指導部	清掃活動に率先して出来る生徒と出来ない生徒がいる。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	アンケートは良好だが、率先して清掃活動をしている生徒は少ない。来年度は時間帯にも余裕があるので指導していきたい。
⑤ 不注意による遅刻をなくす ○遅刻業後指導の徹底	生徒指導部	一部の生徒が遅刻を繰り返している。ほとんどの生徒は良好。業後指導は定着してきた。	遅刻者集計表で10%未満の月数 A 7ヶ月以上 B 6ヶ月以上 C 5ヶ月以上 D 5ヶ月未満	B	遅刻に関しては昨年度よりも良好であった。しかしながら、欠席においては昨年度よりも増加した。
⑥ 交通マナー指導 ○自転車マナーの向上 ○バス及び電車利用時のマナーの向上	生徒指導部	生徒の意識ではマナーを守っているとアンケート結果に出ている。しかしながら、外部からの苦情は多くあった。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	アンケートは良好だが、交通マナーの苦情は増加傾向にある。生徒の意識と食い違いが多々あるように思う。講話などを活用し、意識改革をしていきたい。

重点目標 2. 楽しく明るい学校生活を送る						
①	主権者教育を見据えた生徒会活動の活性化	生徒会及び議会	本年度、生徒会規則を含め、大幅な見直しを実施する予定である。	議会の開催回数 A 年6回以上 B 5回以上 C 4回以上 D 4回未満	C	議会開催回数および見直しは大きくは進まなかった。しかし、年度末の議会では新たな同好会を3つ承認し、次年度の生徒会活動の活性化に向けて新たな取組をしていく準備を進める。
②	本校らしい体育祭・学園祭 ○生徒自身の手で作成し、生徒全員が参加し、楽しむことができる体育祭・学園祭を行う	保健体育科 <体育祭>	準備から運営まで生徒主体で行うことができた。各団の創作ダンスも好評だった。年々増加傾向にある保護者の観覧について対応を工夫する。	体育祭アンケートの結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	今年度は優勝トロフィーと盾を新調し、各団ともに競争心を持ち、競技に臨んでいた。また、生徒会の協力もあり、団の団結力のみならず、学校全体の愛校心を育むことができた体育祭となった。
		生徒会 <学園祭>	昨年度、第一体育館の改修工事により、歌劇座にて舞台発表を行ったが、発表内容、音響や照明などにおいて充実したものとなった。	学園祭アンケート結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	生徒数が多く、窮屈な思いをさせたと思うが、新しい第一体育館で実施したことや、クラス企画が充実していたこと、生徒会が盛り上げたことなどから満足度が高かった。
③	充実した修学旅行を実施する ○事前・事後（プレゼン含む）学習の内容を深める	2年学年会	熊本地震によりルート変更があったが、事故等もなく充実した旅行であった。インフルエンザが流行る時期であり、健康管理に注意が必要である。	修学旅行アンケート結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	100点法で生徒から評価を募った。100点～80点が肯定的、79点～60点がやや肯定的、59点～40点が普通、39点～20点がやや否定的、19点～0点が否定的として、肯定評価を100点～60点とした。集計の結果430人中387人（90%）から肯定評価を得られた。実際の参加人数（470）に比べて集計数が少なかったのは、インフルエンザ等の体調不良による影響であった。 事前研修・事後研修を実施し、発表会も実施することができた。ただ、大雪の影響があり、計画していた内容を全てこなせなかった。
④	卒業生アンケートを実施し、本校の満足度調査を行う	3年学年会	1月25日に実施し、全体での肯定評価は79%（C）であった。	卒業生アンケートの結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	生徒会長を中心に学校行事を盛り上げ、卒業式においても新たな試みを行った記憶に残る学年となった。学校方針についてと教育環境についての項目において満足度が低かった。全体での肯定評価は88%であった。
⑤	游学講座に積極的に参加し、自分の可能性にチャレンジする	游学講座 運営委員会	新たな開講場所として“街なかキャンパス”を設けるなど、25周年の節目を飾ることができた。新年度に向けても講座の拡充を図ることができた。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A	肯定評価93% 新教育課程における位置付けを再考し、いっそうの充実に努めていきたい。
⑥	部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○退部届を整備し、退部者を把握する	特別活動部	5月（1～3年生） 男子：63% 女子：41% 全体：51% 10月（1・2年生） 男子：66% 女子：41% 全体：52%	部活動加入率 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	○文化部の活性化については、目標を掲げたは良いが、なかなか難しい点が多く達成に近づけなかった。 ○入退部届については、e教務などを活用していけたらと思います。
⑦	部活動において、県総体等（3年生が出場する最後の大会）での成績上位をめざす	特別活動部	団体競技： 男女卓球部（県1位）男女駅伝競走部（県1位）女子バレー部・サッカー部（ともに県ベスト4） 個人競技： 男女卓球部（県1位）女子駅伝競走部（県1位）	学校対抗戦において、優勝10点、準優勝6点 ベスト4入賞4点 ベスト8入賞2点 で換算 A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 60点未満	B	皆さんそれぞれの目標達成に向かって努力されておられると思います。
⑧	学校のグローバル化を推進する	姉妹校関連 事業推進PT		シジス校との交流を計画する A 年間6回以上 B 5回以上 C 4回以上 D 4回未満	D	英語部、フランス語（游学講座）の生徒を中心にクリスマスカードを送った。（姉妹校からもカードが生徒に届いた。）

重点目標 3. 確かな基礎学力の向上						
①	年3回の研究授業 ○主体的・協働的な学びの研究を進める	教務部 教科会	ALを用いた研究は徐々に進んでいることが見られる。教科にとらわれず見学することが授業研究のヒントともなっている。参加人数は教科ごとに異なる。	ループリック5点満点評価（回数・準備・合評会・改善度） A 4.3点以上 B 3.6点以上 C 3.0点以上 D 3.0点未満	B	今年度は年3回の実施予定であったが、3学期に予定されていた研究授業は、悪天候が続く実施できない状態となった。回数や実施の方法を再検討する。
②	年5回の互見授業週間 ○担任が互見授業を通して、クラスの授業中の雰囲気をつかむ	教務部 学年会	教員一人の見学回数平均値は1.4回。授業以外の業務が重なり授業見学に行けないなどの状況があるが、クラスの授業状況をつかむためにも見学することを今後も続ける。	ループリック5点満点評価（見学頻度・改善策） A 4.3点以上 B 3.6点以上 C 3.0点以上 D 3.0点未満	C	授業見学により多くいくために実施時期と回数を検討する。大会などで授業振替が集中してしまうことも影響していたと見られる。昨年度よりは見学回数の総数は増えている。今後も引き続き実施する。
③	わかる授業、学力が身につく授業を展開	教務部	評価が高い割合は52%となったが、やや評価が高い割合を含めると87%となる。基礎学力の定着方法は毎年各教科で検討していく。	授業アンケートの総合評価で、肯定的評価80%以上の教員の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	数値的には昨年度とほぼ同等の結果となった。改善策の検討として、教科内全体でとまではいかないが、同一学習集団での授業内容の話し合いや、新たな取り組みへの報告などを行っていた。
④	個人面談カード等を活用し、家庭学習習慣の確立を目指す ○学校での学習（スペシャル講座等）を含む	教務部 1年学年会 2年学年会 3年学年会	1年学年会：個人面談カードの代わりとして、年度末に学校長へ提出する「注意を要する生徒」に、該当生徒の状況を担任に細かく書いてもらったものと、クラス生徒全員分の申し送り事項を記載してもらったものを、2年学年会で配付した。 学校の学習としては、2学期から成績不振者対象に勉強会を実施した。 定期考査毎に数学質問コーナーを、学年会の数学科の先生が設置し、特進を除く全クラスに連絡した。 2年学年会：特進に関しては補習後も学校に残り学習時間を確保するようにした。一般進学に関しては、定期考査前の学習が中心であった。 3年学年会：面談準備シートを用意し、面談に臨んだ。学校での学習については、進路の実現に向け、卒業後も学校で勉強する姿がみられた。	家庭学習時間実態調査結果 ○1年生 1日平均1時間以上 ○2,3年生 特進 1日平均3時間以上 四大進学 2時間以上 その他生徒 1時間以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1年生 D	面談には面談準備シートを用意し、密な面談を行うことができるよう工夫した。面談に際してはClassiの活用を行い、生徒の成績などを見ながら面談を行った。また面談後には気になることなどをその都度ポートフォリオとして蓄積している。
					2年生 D	面談には4月当初実施の進路基本調査を活用した。また、e教務の成績関係の書類を活用した。Classiで特進クラスを除く全クラスに夏期休暇課題、一文・一理クラスには、進研模試対策事前事後課題を配信したが、取り組み状況は良くなかった。
					3年生 D	特進に関しては補習後も図書室や教室に残り学習時間を確保していた。一般進学に関しては、定期考査前の学習、小論文や面接等の入試対が中心であった。 3年学年会はClassi未導入。
⑤	授業態度の改善	教務部	指導カードの方向性を見直したことで発行される枚数は増加したが、より授業の状況が把握できるようになったことで、今後の授業改善の一步を踏み出した。	授業態度指導カードの発行枚数を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超	A	2年生3年生は昨年度に近い数となった。1年生の数が昨年度と比べ大きく減少した。変化としては良い変化が見られた。
⑥	「総合的な学習の時間」を充実・発展させる	1年学年会 2年学年会	1年学年会：進路選択の一助となるように、進路講演会・行事・ワークシート・グループワークに取り組む。愛校心を育てるということで、創立記念日の行事として、講話を実施した。 文章力の育成としては、テキストの活用、小論文テストを3回実施した。 2年学年会：昨年度は遊学講座が総合学習の時間であった。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1年生 A	総合Ⅰにおいては、ベネッセの表現トレーニング1を採用し主体的に判断し、意見を述べるために必要な表現力の基礎を身につけるための学習活動を行った。評価は遊学講座のアンケート結果である。
					2年生 A	総合Ⅱにおいては、7月に進路見学会、3月に進路ガイダンスを、進路希望の具体化につなげるために企画した。また、3月にある修学旅行に向け、事前学習を行い、行き先の文化や歴史について探求した。また、事後研修で修学旅行での活動内容をまとめ、発表会を実施した。評価は遊学講座のアンケート結果である。

⑦	英語検定受験者の増加と資格取得	検定担当者 (英語科)	前年の合計合格率 33.3%に対して今年度は 36.7%を出すことができた。2級合格者も 4名と増えたが全体の受験者数は前年 114人に対して 68人と大幅に減少した。受験者を増やすために遊学講座の英検担当と英語部顧問と連携をとっていく。	ルーブリック 10 点満点評価 (受験者数・準 2 級以上の合格者数・取得率) A 8 点以上 B 5 点以上 C 2 点以上 D 2 点未満	B	今年度は英語科の先生と連携をとり、受験者数は 141 名と大幅に増え、合格者も 2 級 5 名、準 2 4 名、3 級 1 2 名となった。 1 次試験前には受験者を全員呼んでガイダンスを行い、1 次試験合格者は 2 次試験に向けて ALT と面接対策を行った。 特に面接が苦手な生徒が多く、今まで出来なかった 2 次試験対策が合格者数に直結した。
⑧	第 2 回スタディーサポート結果の向上	教務部	昨年度の 1 年生と比較すると割合は増加したが、1 回目と 2 回目を比較すると割合は減少している。昨年度の 2 年生と比較すると割合は減少した。	D 層の割合を昨年度と比較 A 90%以下 B 95%以下 C 105%以下 D 105%超	1 年生	今年度よりスタディーサポートを α 型より θ 型に変更したため、単純な比較はできないが、C 3 層と D 1 層の境界線上にある生徒が見えたように感じられる。D 層は 51.8% から 47.3% と 91.3% に縮小した。
					2 年生	コースの特性も考えて、コースで α 型 θ 型に分けて受けることとした。結果としては大きな改善とまではいっていないが、意識する生徒は増えている。
⑨	朝学習の有効活用	1 年学年会 2 年学年会	1 年学年会：マナトレ数学・読書に取り組んだ。 総合学習が始まり、総合学習・ホーム・土曜日の学年会使用と企画項目がたくさんあり、それぞれの項目に特色を出すことは難しい。 また、10 分という時間は有効に使うには、使い勝手が悪く感じられる。 2 年学年会：各コースによって読書や、小テスト等で活用した。	学校生活アンケートの結果 A 肯定評価 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1 年生	1 学期から 2 学期までは課題図書「星新一、ようこそ地球さん」を採用し、完読～感想文作成まで行なった。11 月の学園創立時期前には「かなざわ偉人物語③」より学園創立者の軌跡を読み、感想文を作成。その他学校行事・学年行事後の感想文、200 字作文、読売ワークシートなど「読む・考える・書く」ことをベースに多彩に行なった。
					2 年生	朝読書を実施する。テスト週間は学習週間とした。理系クラス・特進クラスでは小テストを実施した。
⑩	図書貸出数の増加	図書委員会	昨年度設定の目標値は達成することができなかった。委員会の貸し出し業務も円滑に行えなかった。	図書貸出数 A 年 800 冊以上 B 600 冊以上 C 500 冊以上 D 500 冊未満	D	委員会活動を機能させることができなかった。

重点目標 4. 進路指導の充実、特に進学実績の向上						
①	国公立大学合格実績	進路指導部	4 名 (筑波大含む)。特進クラスとしては 2 名のみの合格。	国公立大学合格者数 A 10 人以上 B 7 人以上 C 5 人以上 D 5 人未満	B	現役 7 名・過年度 2 名で合計 9 名。現役で 8 名以上を目標にしてきたが達成はできなかったが、生徒はよく頑張った。生徒全員が一般試験に向けて最後まで粘り強く取り組めたことも、今回の結果に繋がったと思われる。
②	金城大学及び金城大学短期大学部への進学	進路指導部 3 年学年会	大学への進学者数は 19 名で、全体の 4.1%。内訳は以下の通り。 福祉：12 名 医療健康：4 名 看護：3 名	全校生徒に対する進学者の割合 <金城大学> A 6%以上 B 4%以上 C 3%以上 D 3%未満	A	大学への進学者数は 31 名で、全体の 7.4%。内訳は以下の通り。 福祉：24 名 医療健康：2 名 看護：6 名 社会福祉を志望する生徒数は頭打ちになることが予想されるので、医療健康と看護への志願者に対する 2 年次からの指導をきめ細かく行い、安定させる必要がある。
			短大部への進学者数は 78 名で、全体の 16.9%。 幼児教育：31 名 ビジネス：39 名 美術：8 名	<金城大学短期大学部> A 16%以上 B 12%以上 C 8%以上 D 8%未満	C	短大部への進学者数は 48 名で、全体の 11.4%。 幼児教育：17 名 ビジネス：27 名 美術：4 名 幼児教育系とビジネス系の学科は、県内すべての大学または短期大学に設置されているようになったので、他にない魅力を大学側が打ち出す必要がある。または、高大連携活動によってコースの特色をさらに強めるなどの取り組みも一案。
③	大学入試センター試験受験者数の増加	進路指導部 3 年学年会	昨年度は 30 名の生徒がセンター試験を受験。	センター試験受験者の割合を昨年度と比較 A 110%以上 B 105%以上 C 95%以上 D 95%未満	A	今年度は 41 名の生徒がセンター試験を受験。さらに受験者数を伸ばすには、一文・一理クラスでの授業内容を検討する必要がある。
④	就職指導の充実	進路指導部	学校紹介による就職希望者 51 名全員が内定。	就職希望者 (学校紹介) の決定率 A 100% B 96%以上 C 94%以上 D 94%未満	A	学校紹介による就職希望者 34 名全員が内定。

以上